

February 23, 2017

NEC Networks & System Integration Corporation

(TSE: 1973 / NESIC)

Date & Time: February 23, 2017 (Thursday) 13.00~14.00

Q:日本の事業環境について、生産性は鈍化してきており、ICT投資や社会インフラ投資も弱含みではないかと感じていますが、中期経営計画の前提である事業環境認識について教えてください。

A:中計期間中は、キャリアの設備投資の厳しさは継続すると想定していますが、企業向けのICT投資は堅調ですし、社会インフラ分野においても、市場が盛り上がる投資テーマはあります。日本の生産性という面では、当社のEmpoweredOffice事業は、まさに企業の働き方を変えて生産性向上を目指すものであり、日本政府が働き方改革を提唱していることも受け、ビジネスチャンスだと考えています。社会インフラ分野では、日本は災害が多い国なので防災分野への投資は引続き期待できますし、オリンピックに向けて、放送・CATV分野の投資も堅調に推移すると考えています。さらには訪日外国人向けのインバウンドビジネスは現在ホテル向けが活況です。これらの、投資が活性化する分野に注力することで、成長を実現したいと考えています。

Q:次世代通信の5Gに対しNESICとしてどう取り組んでいくのか、今後の展望を教えてください。

A:5Gについては積極的に取り込んでいきたいと考えていますが、当社業務分野である基地局設置工事については、既設の鉄塔や局舎での、モジュールの追加・交換といった業務が中心となるため、3GやLTEほど規模が大きくなるとは考えていません。新技術導入により、新しい使い方、サービスが生まれ、それによりトラフィックが急増し、コアネットワークの増強がされることを期待しています。

Q:ここ10年強の間に営業利益率が大きく改善していますが、今中計期間では5.5%と、従来の水準から大きな改善を計画していませんが、それはなぜですか。また、今後さらに改善することはありますか。

A:10年単位で見ても良くなってきたのは、工法や調達方法の改善や、保守拠点統合等の効率化のための内部努力の成果です。中計期間においては、プレイヤーが比較的少ないことなどから収益性が比較的高かったキャリア事業が低迷すること、今後の成長の中心となる企業向けや社会インフラ分野は競争激化が予想され、売価は厳しい方向にならざるを得ないことなどから、今までのペースでの収益性改善は難しいと考えています。中計期間では、内部努力を継続することでこのような影響を吸収し、営業利益率を過去最高水準まで戻していくことが重要だと考えています。

Q:キャッシュが増えています、手元にどのくらい持つべきだと考えていますか。

A:不測の事態が起きても対応できるためには、運転資金として売上1カ月分相当の200～300億円くらいは必要と考えています。それ以外は、成長分野への投資やM&Aに使いたいと考えています。成長につながるM&Aがあれば積極的に実施する考えです。

Q:株主還元として、自己株買いではなく、配当を重視している理由は何ですか。

A:当社は、長期保有株主に対して安定的に還元することを重視しており、多少の利益変動があっても継続的に安定して株主に還元していきたいという方針です。自社株買いは、その時保有している株主に対する一時的な株主還元となるため、一時的な業績に左右されない安定的な配当を重視しています。

以上